

# いしづち

2016.11

No.113

公益社団法人 愛媛県建築士会  
<http://www.ehime-shikai.com>



故きをたずねて 伊佐爾波神社と松山神社

光のはなし フランク・ロイド・ライトの建築見学01

自然と家とにんげんと 便利さよりも火のある暮らし

1	故きをたずねて 第9回 伊佐爾波神社と松山神社 (松山市) 文化財・まちづくり委員会委員長 花岡 直樹 ……①
2	自然と家とにんげんと 便利さよりも火のある暮らし 今 治 支 部 橋詰 飛香 ……②
3	光のはなし フランク・ロイド・ライトの建築見学01 宮 地 電 機 ㈱ 田部 泉 ……③
4	くさぐさの風景 秋の花、竜胆 (山) ~秋明菊 (里) 松 山 支 部 安藤 雅人 ……④
5	雑想 Born Free 松 山 支 部 玉乃井公和 ……⑤
6	支部報告 (建築士の日の行事報告) 紙まつりフリーマーケット住宅相談 四国中央支部長 尾藤 淳一 ……⑦ 家づくり なんでも無料相談 新居浜支部長 白石 公成 ……⑧ 家づくり なんでも無料相談 西条支部長 元根衆三郎 ……⑧ 丹原七夕祭in耐震診断・耐震改修アピール活動 西条支部 国宇順一郎 ……⑨ 夏彩祭in耐震診断・耐震改修アピール活動 西条支部 国宇順一郎 ……⑨ おかしなまちをつくらう! 今治支部長 石丸真智子 ……⑩ 安心安全なまちづくり 伊予支部長 濱本 浩 ……⑩ 建築巡礼inまつやまVIII 松山支部長 赤根 良忠 ……⑪ 耐震診断・耐震補強啓発活動 大洲支部長 神田 孝一 ……⑫ 無料建築相談、「建築士の日」街頭アピール他 八幡浜支部長 林 一夫 ……⑫ 地域美化活動 西予支部長 亀岡 俊治 ……⑬ 2016夢のまち・素敵なまち絵画展 宇和島支部 酒井 久和 ……⑬
7	ヘリテージマネージャー講座報告 歴史的建造物の保全活用に係る専門家養成講座 第2回講座 文化財・まちづくり委員会委員長 花岡 直樹 ……⑭ // 第3回講座 広島大学大学院教授 三浦 正幸 ……⑰
8	委員会報告 中四国まちづくり委員長会議の報告 文化財・まちづくり委員会委員長 花岡 直樹 ……⑱ 平成28年度第26回全国女性建築士連絡協議会報告 女性委員長 大塚美由紀 ……⑳ 女性委員 大西 千里・近藤 佳代 ……㉑
9	けんちくの輪 私と建築 四国中央支部 尾藤 淳一 ……㉒ ターニングポイント 西予支部 土居原幸子 ……㉓
10	お知らせ 平成28年度第3・4回理事会概要報告 事務局 ……㉔ 編集後記 ……㉕

※ 尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



## 版画

題：「やわたはま大正湯」  
山田 きよ

## 〔表紙の版画について〕

八幡浜市「大正湯」は、昨年老朽化に伴い休業していたが、9月に再開となった。大正期に創業されたことからその名が付けられたのかと思つたらそうではなく、そこが大正町だったからだそう。近くには「明治橋」や「昭和通り」もあることから、そこは八幡浜の歴史を物語っているようだ。今回のリニューアルで、日除けのロール、サンシェードを新調し、外壁は綺麗にペイントされたので、私の画いた「大正湯」は、もう見ることは出来ない。

表紙作者 山田 きよ プロフィール

1959 喜多郡五十崎町 (現内子町) に生まれる  
1980 松山デザイン専門学校卒業  
1982 広告デザイン会社を退社し、家業の竹材業に就く  
1988 独学で切りぬき手法のシルクスクリーン版画を初制作  
以後、内子町内子座や大鳳合戦のポスターを手がける  
1993 初の個展  
2003 愛媛県文化協会奨励賞  
2012 個展回数が100回となる  
(本名 山田 清昭 内子町在住)

## 第9回 伊佐爾波神社と松山神社 (松山市)

文化財・まちづくり委員会委員長 花岡 直樹

「神社」といえば、どういった形を思い起こされるでしょうか。県下の多くの神社の場合、社殿は御神体を祀る本殿と礼拝のための拝殿が別棟になっていると思います。流造の本殿の手前に入母屋造の拝殿が建ったものが多く、拝殿から本殿に行くときに雨風に当たらないように屋根を架けたり、中殿・幣殿と称する建物で連結する場合もありますが、基本的には別棟です。

これに対して、最初から本殿と拝殿を一体に作った形式のものが 있습니다。まずは松山神社(松山市祝谷東町、元治2年(1865)、市指定文化財)で、徳川家康公を祀る東照宮として建てられました。本殿と拝殿の間の「石の間」にも直行方向に屋根を架け、その棟が拝殿正面に出て千鳥破風を付ける形式で、徳川家をお祀りする神社に多く用いられたことから「権現造」と呼ばれています。結果屋根が非常に複雑な形になり、「八棟(やつむね)造」とも呼ばれています。塗装をせずに木目を見せる素木造りで、尾州檜の良材がふんだんに使われています。

次は伊佐爾波神社(松山市桜谷町、寛文4年(1664)、国指定重要文化財)です。権現造同様、平面的には本殿と拝殿とその間の「相の間」を一体とした構造ですが、屋根の形は権現造とは全く異なります。本殿と拝殿に別々の切妻屋根を架け、中間の相の間の屋根の谷の部分に水平の樋を架けます。このため側面はとても単純でM字に見えます。八幡神社に限って用いられた形式ということで「八幡造」と呼ばれています。全国に約4万社ある八幡神社の総本山の宇佐八幡(大分)、石清水八幡(京都)とともに、三大八幡造りとして有名です。こちらは木部には丹、胡粉、緑青が塗られ、彫刻には彩色が施され、柱には金箔が貼られるなど、とても派手な色彩になっています。

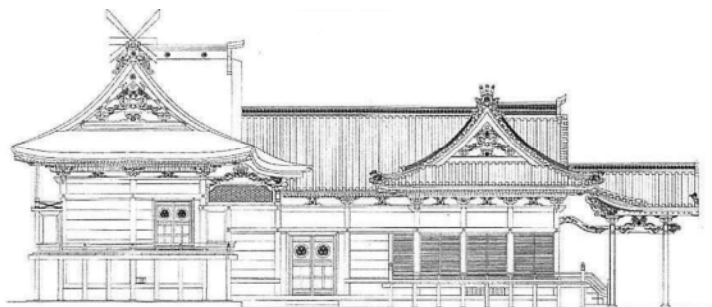
道後地区にはこのほかにもたくさんの文化財があります。「権現造」と「八幡造」の比較しながら是非一度散策してみてください。



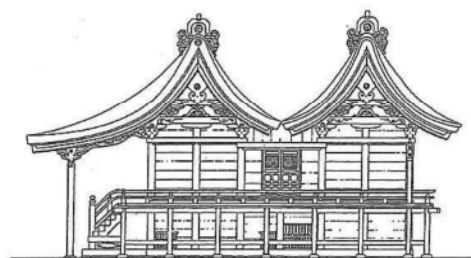
松山神社



伊佐爾波神社



松山神社側面図(権現造)



伊佐爾波神社側面図(八幡造)



# 便利さよりも火のある暮らし

自然と家とにんげんと

2

今治支部 橋詰 飛香

寒くなり始めると手掛けなどの家も薪ストーブが活躍をします。土壁の家と火のある暮らしはとても相性がよく、私が手掛ける昔ながらの家づくりでは薪ストーブは当然の仕様のごとく居座っています。自然素材を好み、手間と時間を掛け家を建てられる建て主さんだからこそ、便利さよりも自然との関わりや手間をかける事で生まれる楽しみを味わって頂きたいと思うのです。

我が家も同様に、薪ストーブは欠かせない暮らしの道具。ここ鈍川の地の冬の到来はとても早く寒いです。家は古い日本の木造家屋で窓が多く、隙間風のはいる木製建具ばかり。しかもネズミが出入りするような隙間があちこちに……。石油ストーブやエアコンはまったく力を成さないといいほど冬は過酷な住まいです。



しかし火の威力は素晴らしく、街から訪れる客人も「我が家よりも暖かい」と言ってくださるほどの暖かさです。不自由は感じません。全館暖房は望まず、冬は小さく暮らす。これが我が家のモットー。多くを求めず、先人達が培ってきた智恵に添い、夏は開け放って風を招いて暮らし、冬は小さく仕切って僅かばかりの熱で寒さを凌ぐ工夫。それは自然に寄り添い暮らすための木造家屋のモットーだったかもしれません。

そして火を焚き始めると、以前は嫌だった冬の到来も「待ってました!」と言わんばかりに、小犬の如く駆け回りたくなるような気分させてくれます。火とは不思議なもの。そこにあるだけで気持が安堵し、穏やかに揺れる炎は気分を豊かにさせてくれます。そこが単なる暖房器具に終わらないところで”火という自然”にふれる楽しみが冬にはあるのだと教えてくれました。

我が家は仕事部屋、住居部分と二台の薪ストーブを据えておりますが、仕事部屋の傍らに揺れる炎がある、というのは何とも言い難い良い光景です。太古の昔から人

は火と付き合い、火は家や人を守ってきました。遺伝子に刻まれた記憶なのかもしれませんが、火がそばにある事にホッとする自分がいます。土や木や草がもつその素材のエネルギーを私達人間は確かに感じ暮らしているのだといつも確信しますが、火も同じです。ただ、そういったもの達から離れがちなのが今の時代でもあります。



(パンやケーキを薪の火を使って焼く時間は、幸せな時間かも)

夜の晩酌に火は最高の友です。身体の芯まで暖まって離れ難い心地よい酔いに、薪ストーブの前でそのまま深い眠りについてしまう事もあります。薪ストーブの熱でコトコトと煮込み料理をする事や、付属のオーブンで菓子やパンを焼くこともあります。家族一緒に薪を割ったり集めたり、火が放つ神秘的な力は家族との掛け替えのない時間を生み出してくれる貴重な道具ともなります。

スイッチボンで何ごとも便利に片が付く良い時代ではありますが、便利さによって忘れ去られた季節の楽しみや自然との関わり、家族との豊かな時間があるかもしれません。火がもたらしてくれる恩恵を、私達人間はどこまで理解をしているのか。火のある暮らしを積極的に取り込んで提案していきたい私です。

ただ・・・建築基準法の内装不燃の縛りは、自然素材にこだわる私にとっては耐え難い縛りでもあります。「木を使いたいのか？薪ストーブを使いたいのか？」の厳しい二者選択です。薪ストーブを好む人は木が好きなのです～！（叫び）。簡単に石膏ボードを使いたくない自分がいます。それは石膏ボードを使うことの弊害を知った私の生き方です。暮らしを生き方を縛る権利はないはず。

いつもながら法的な壁にぶつかり、世の流れに逆行しているかのような私の家づくり（生き方？）は、生きづらいと言っていいかもしれません。



# フランク・ロイド・ライトの 建築見学01

宮地電機(株) 田部 泉

フランク・ロイド・ライト (Frank Lloyd Wright) は1867年6月8日にアメリカ生まれ、多くの有名建築を残した建築家です。来年、2017年は生誕150年を迎えようとしています。堀静夫氏が委員長になり『フランク・ロイド・ライト生誕150周年記念事業委員会』を立ち上げて、行事を計画しています。私も楽しみにしています。そこで、私が見学した数少ないライトの建築を巡って回想してみます。

私が初めてライトの作品を見たのは、1984年6月に東宮傳照明設計事務所主催のアメリカの照明研修に参加したことから始まります。初めてニューヨークに行き、『グックイハイム美術館』(1949年完成)を見学することができ、美しい建築なので大いに驚きがありました。外観は白くてモダンな建築物で、建物の内部は大きな吹き抜けになっていて、まるで巻貝の内部のような螺旋状の構造になっている美しい造形物に見とれたことを覚えています。



■グックイハイム美術館 外観



■トップライト



■廻廊の展示

内部に入って閲覧するにはエレベータで最上階に上がり、螺旋状に回る廊下の展示物を見ながら降りてきます。天井面にはデザインされたトップライトの光天井が自然光を明るく取り込み、その周囲には埋込型照明(ダウンライト)が配置されていて、昼間や夜間の主照明として利用されている。螺旋状の展示通路には美術品(絵画や彫刻)に最適な光で照らしている。作品の一部にはセキュリティの関係の白人や黒人のガードのために立っているので、オドオドしながら作品よりもその人たちを見ていた自分がありました。最後の地上階に降りると、その主照明は埋込丸型照明が設置されている。よく見ると部分的には自然光を活用しているトップライトで採光している。日本では、自然光を活用した美術館は少ない。理

由は、紫外線で作品の劣化を防ぐためです。しかし、アメリカやヨーロッパでは、自然光と人工光の混合照明を多く使用している。絵画などに劣化防止の十分な対策がされているのだろうといつも思っている。この建築の印象が良かったので、すぐライトの本を購入して読み、日本にも数件ライトの設計した建築があることは本の中では知っていましたが、見学に行く機会に恵まれずにいました。

2013年4月『ヨドコウ迎賓館』(旧山邑邸家住宅1924年完成)を訪れることが出来ました。兵庫県の芦屋の緑に包まれた小高い傾斜地に、大谷石を使った独特のデザインに魅了させられる。



■ヨドコウ迎賓館 居室



■リビング



■屋上

照明器具もデザインされていて、吊下げ照明、スタンド、壁付照明など、上手に活用されている。それ以上にトップライトや窓から、自然光をうまく取り入れ室内の明るさを確保している。洋館の建物には珍しく畳の間があるのには驚きがありましたが、どの部屋・廊下も、窓の採光はよく考えていて、自然光に照らされていた。夜間の見学できないのが残念です。



■玄関



■珍しい和室



■廊下

※大谷石は軽石凝灰岩の一種。栃木県宇都宮市北西部の大谷町付近一帯で採掘される石材。柔らかく加工しやすい、古くから外壁や土蔵などの建材として使用。

今回は『帝国ホテル中央玄関』と『自由学園明日館』について

# 秋の花、竜胆（山） ～秋明菊（里）

松山支部 安藤 雅人

今回は秋の花、ちょうど秋が深まるように、山から里へと下りながら紹介します。



リンドウ

秋の山も、とても花が多くて迷いますが、リンドウ（竜胆）が一番好きです。春にも、同じ仲間のフデリンドウやハルリンドウの花が咲くので、リンドウ＝秋というイメージが薄いですが、秋のリンドウが一番大きくて立派です。花は瑠璃色ですが、陽の当たり方によって、紫から

水色までに違って見えて、小さな斑点が鮮やかさを引き立てます。しっかりと開いた花も美しいのですが、花弁がらせん状に巻きついている蕾も、床屋の三色サインポール（回転灯）みたいで面白くて大好きです。また、中心から周囲に広がり、ブーケ（花束）のように咲くのも魅力です。

絵に描いた花は、皿が峰、風穴から山頂に登った後に、竜神平を少し上林の方に歩いたところで見つけました。実は、最初に見つけた時に、スマホのバッテリーが切れていて、写真を撮ることができなかったために、一週間後に再度上って撮ったものです。前の週には、リンドウの他に、カワラナデシコ（川原撫子）やツリガネニンジン（釣鐘人參）の花も咲いていました。写真を撮るために、意気揚々と上ったのですが、季節は移ろい、もう、他の花は終わっていました。でも、前の週に3株だったリンドウの花束が、10株程度になっていて、リンドウ祭りの様相となり、感動したことを忘れません。

里山では、ツワブキ（石蓐）の花が目立ちます。大きくて艶やかな緑色をした葉と、すっと伸びた茎の上に集まって咲く黄色い花の対比が美しいです。住宅の庭にもよく植えられ、元々岩場に生える草だからか、石

との相性がとても良く、これがあるだけで、野趣が生れ、和風の庭には欠かせません。名前にフキが付いていますが、フキとは別の仲間のようなです。ツワブキの葉柄も、佃煮等にして食べることもでき、とても美味しいです。人々に愛された野草の一つだと思います。



ツワブキ

最後に、里の花ですが、シュウメイギク（秋明菊）という、とても美しい形をした花が好きです。初めて見たときは、造花のような完璧な形に驚きました。花は勲章の形、葉の形も端正です。秋明菊には、白花と赤紫の花があり、赤紫のものは、京都の貴船寺の辺りに沢山生えていることから、貴船菊とも呼ばれています。古寺と貴船菊の織り成す風景はとても美しく、京都の秋の風物詩となっています。

2年前に、太山寺で、御本尊の50年ぶりの開帳があり、初めて訪れた際に、参道で、八重咲きの貴船菊を見つけました。これほど、気品に溢れ、古寺と似合う花はないと改めて思い、嬉しくなったことを覚えています。是非、京都の貴船寺も秋に訪れてみたいですね。



シュウメイギク



# 建築士の日の行事報告

## 紙まつりフリーマーケット住宅相談会

開催日：平成 28 年 7 月 30 日（土）

対象者：紙まつり参加者及び観客

支部会員参加人数：11 名

第 29 回目を迎えた「四国中央紙まつり」は、7 月 30・31 日、川之江栄町商店街を中心に行われました。紙製品即売やフリーマーケットなど数多くの出店が立ち並び、地元産業の紙をテーマにしたイベントもあることから、多数の親子連れ等で賑わいました。昨年までは、書道パフォーマンス甲子園大会が三島体育館で行われ、集客が二分されましたが、今年度は別日程になったことから、例年より多い人手となったようです。

建築士会四国中央支部も、フリーマーケットの一角にブースを構え、無料住宅相談・耐震工事の助成金の申請方法、建築士による耐震診断の仕組み等を説明しました。また本年度は、熊本地震への応急危険度判定士の派遣を行いましたので、その時の写真パネルも展示しました。



ただ硬いことだけでは集客が出来ないので、子供連れの人にも気軽に立ち寄ってもらうため、ペーパークラフトを用意して、住宅の塗り絵や、住宅の模型の組み立てを子供たちに作ってもらいました。さらに、家の断面図の紙の模型を用意し、筋交いを入れることにより耐震強度が増すことを実感してもらいました。

子供たちに人気のペーパークラフトは、無料で行っていますので、特に小さな子供たちが暑さを忘れて一生懸命



四国中央支部 支部長 尾藤 淳一



命作ってくれました。その際に付き添いのご両親に世間話を通じて、色々な話を伺うことが出来ました。

熊本地震から 3 ヶ月半程度しかたっていないことや震源地から近いこともあり、本年度は耐震診断の依頼が多いですが、この日も展示パネルに見入る人が多く、関心の高さを感じました。ただ、一般の人からすると耐震リフォームを誰に相談していいかわからないという意見が多かったです。このようなイベントを通じて建築士会の存在をアピールして、市民の不安に対して相談に乗ったり、行政の制度の案内をしたりするのは、大変意義深いことだと感じました。

建築士は、建築士会の会員・非会員の区別が分かりづらく、行政職員でも会員にならない方もいます。建築士会が建築士の個々のメリットのためであろうとするなら、社会的な存在価値を失い、行政職員としても入会の意義を感じないと思います。しかし建築士会では、応急危険度判定士の派遣や耐震診断業務の業務提携で愛媛県や各市町でも行政との協力体制を取ってきています。まだまだ一般市民には浸透していない状況ですが、着実にその社会性を高めています。今後も地道であるけれども、市民のための活動を続けることによって、本当に必要とされる建築士・建築士会になっていけるのだらうと思います。

今回は一日で約 50 組 200 人程度の来客がありました。協力いただいた会員の方々、参加いただいた市民の方々に感謝申し上げます。





# 建築士の日の行事報告

支部報告

6

## 家づくりなんでも無料相談

日 時：平成 28 年 7 月 2 日（土）～3 日（日）  
場 所：イオンモール新居浜 2 階イオンホール  
対象者：一般市民

今年度も愛媛県建築士会新居浜支部・西条支部・（公社）愛媛県建築士会主催で、「家づくりなんでも無料相談」というテーマで、7 月 1 日建築士の日記念行事を行いました。2 日の早朝より会場の準備を行い、9 時にはイオンホールでの開催にこぎつけました。その内容は建築士による建築無料相談・建築士による実施工パネル展示・園児による「お絵かき」展示・賛助会員による商品や作品展示・木造軸組模型による耐震作動実験などです。

2 日の土曜日は、昨年より人出が少なく、アンケート回答者は 49 人でしたが、来場者は家族連れが多いので、その 3 倍位の人 came と思います。そんな中で、誰でも作れる「マイ箸」作りは盛況でした。また、興味を持って木造軸組模型の耐震作動実験をしたり、自宅を増改築するための建築相談に来た人もいました。

3 日の日曜日は、新居浜や西条の園児の絵を見に来る家族や、買い物の合間に来る人が、土曜日よりかなり多くて、アンケートの回答も 98 人に記入して頂きました。また日曜日は、土曜日のイベントに加えて、左官体験や

新居浜支部 支部長 白石 公成

板金折鶴実演も行いました。左官塗り壁体験は、多くの左官職人さんに指導してもらい、大人にも子供にも大変人気がありました。



折鶴実演も見ただけでなく、実際に銅板で折鶴製作を経験した人もいました。また、「マイ箸」作りも土曜日同様盛況でした。2 日間製作したバルーンアートも子供たちに喜んでもらいました。

このようなイベントで、一般の人と交流することにより、建築士会の存在を広く知ってもらったり、建築士や職人さんの仕事に対する理解を深めてもらうことができると思っていますので、今後も工夫を重ねながら継続していくことが大切だと思いました。このイベントが多くの建築士会の会員や職人さん方の協力により、開催できたことに感謝をし、報告と致します。

## 家づくりなんでも無料相談

日 時：平成 28 年 7 月 2 日（土）・3 日（日）  
場 所：イオンホール（イオンモール新居浜内）  
参加人数：西条支部から延べ 22 名参加

今年も建築士の日に近い休日の 2 日間、新居浜支部と合同でイオンホールを会場に、建築士の日のイベントを行いました。

恒例の建築士による建築無料相談、建築士による実施工パネル展示、園児による「お絵かき」展示、左官壁塗り体験、バルーンアート、板金折鶴及び折鶴実演等に加え、今年は松山支部から借りた木造住宅倒壊模型を展示し、イオンモールに来た人たちに建築士の活動をアピールしました。

今年は梅雨の晴れ間で屋外に繰り出した人が多かったのか、例年よりイオンモールを歩く人が少なく、会場に来た人も減ってしまい残念でした。

毎年の事ながら、園児の夢のある絵に微笑み、左官工や板金工の腕に日本の伝統を感じました。

2 棟の 2 階建て木造軸組模型を壁があまり無い物と筋交いや面材で壁補強をした物にして、それらに力を加

西条支部 支部長 元根 衆三郎

えて倒壊させる実験に多くの人が耐震補強の効果と必要を感じたようでした。また、我々はその模型の出来のすばらしさに感心しました。特に部材間がゴムで繋がっていて、模型を倒壊させても直ぐに復元できるのに驚きました。こころよく貸してくれた松山支部に感謝です。

行事終了後、今年は西条で参加者有志による懇親会を行い、来年の同行事実施に向け大いに盛り上がりしました。

西条支部では、他にも建築士の日の行事として耐震診断・耐震改修アピール活動を丹原七夕祭（8 月 6 日）と夏彩祭（8 月 28 日）でも行います。（冊子が発行される頃には実施済みかも。）



# 建築士の日の行事報告

## 丹原七夕祭 in 耐震診断・耐震改修アピール活動

西条支部 国宇 順一郎

日 時：平成 28 年 8 月 6 日（土）

場 所：丹原町伊予銀行駐車場

対象者：盆踊り出場者及び観客

参加者数：17 人

\* 西条市建築審査課と共同して、耐震診断・耐震改修のチラシとティッシュを配布した。

今まで周桑支部だけの活動でしたが、西条支部との合併最初の活動でした。

丹原七夕祭りは、地元の盆踊りのグループが多数参加と、徳島から阿波踊りの連も参加して盛大に盛り上がりました。



昨年に引き続き、かき氷と射的をしましたが、見物の観客が列をなしてかき氷を買ってくれて、作る方は本当に休みがありませんでした。

射的も子供に大うけで盛り上がり、昨年と同じかき氷と射的がメインになり、耐震診断・耐震改修のアピール活動は、程々になってしまいました。

毎年同じですが、観客の喜ぶ姿を見るのが一番ですし、行事の活動に参加された支部の方も楽しくさせていただきました。



## 夏彩祭 in 耐震診断・耐震改修アピール活動

日 時：平成 28 年 8 月 28 日（日）

場 所：壬生川伊予銀前通り

対象者：イベント出場者及び観客

参加者数：10 人

\* 伊予銀通りを歩行者天国にしての各種イベントの一環として、耐震診断・耐震改修のアピール活動（チラシ、ティッシュの配布）

\* 客寄せの一環として、かき氷の販売と射的のイベントを行った。



8 月はイベントが 2 回あり、その中に参加し、耐震診断・耐震改修アピール活動を行い、これも西条支部と周桑支部合併最初の活動でした。

客寄せのかき氷の販売と射的は、丹原に引き続き客が集まり、丹原よりは耐震診断・耐震改修のチラシとティッシュを配布できたのではないかと考えております。

午前中は順調でしたが、午後からはメインイベントであるライブが始まると、客足が止まってしまいました。

今回もかき氷と射的は大成功！メインの耐震診断・耐震改修のチラシとティッシュ配布もかき氷と射的程ではないですが、配布できたのではないかと思います。



今、地震があるだろうと意識される方が増加しているので、耐震診断・耐震診断補助事業があることも含め、もっとアピールしていくようにイベント事業は引き続き継続していきます。



# 建築士の日の行事報告

## おかしなまちをつくろう!

日 時：平成 28 年 7 月 30 日(土) 13:30 ~ 17:00  
場 所：今治市中央住民センター 2 階 栄養指導室  
対象者：今治市内の小中学生  
参加者：小中学生とその保護者合計 60 名

今年で 4 回目になる「おかしなまち」づくりのイベント。定員以上の応募があり、小中学生 40 名と保護者の方に参加していただきました。

前回までは、おかしないえの土台は全員同じものを用意していましたが、今年は色々な種類を用意、各自アイデアに富んだ素敵なおかしないえが出来上がりました。

このイベントを通じて、引き続き、建築・まち・モノづくりの楽しさを伝えていきたいです。



今治支部 支部長 石丸 真智子

解散前に、今治支部の主催する絵画コンクール（今治のまんなかになんなものがあったらいいな!）の告知をしたところ、「それ、やろうとと思っている!」とのお子さんの声を聞き、うれしく思いました。

一見地味な活動ですが、継続することにより、建築士会の知名度をアップし、地域住民の皆さまが少しでも建築に興味を持ってもらえれば幸いです。



おかしな建築士の認定書を渡して、最後に全員集合して記念撮影。将来の夢は、もちろん「け〜んちくし〜 \ (^o^ ) /」であってほしいですね。

## 安心安全なまちづくり

平成 28 年 6 月 11 日 旧中山高校跡 6 名  
平成 28 年 7 月 31 日 伊予市商店街 15 名  
平成 28 年 9 月 3 日 下灘駅 4 名

伊予支部は「建築士の日」の行事として、昨年に続き近い将来おこると考えられる「東南海・南海地震」に対する啓蒙と災害に強いまちづくりを推進するため、【木造耐震診断および木造耐震改修工事】の申し込み先と建築士会伊予支部の名前を印刷したウチワを伊予市の三つの夏祭り「6 月中山ホテルまつり」「7 月伊予彩まつり」「9 月下灘駅プラットホームコンサート」の会場で市民の皆さんに配布しました。

今年も天候に恵まれ、多くの市民の皆さんが各会場に

伊予支部 支部長 濱本 浩

集まって来られ、用意したウチワはすぐに配りきりました。このウチワに印刷した内容を市民の皆さんが読んで少しでも建築士と地震に関心を持っていただくことができればいいなと思います。



伊予彩まつり



中山ホテルまつり



灘駅プラットホームコンサート



# 建築士の日の行事報告

## 建築巡礼 in まつやま VIII

松山支部 赤根 良忠

日にち：平成 28 年 7 月 16 日（土）

巡礼場所：松山市～道後界限

参加者：一般市民 20 名、スタッフ 23 名

松山支部公益事業「建築士の日」行事として今年も一般市民を対象に建築物を観て解説し巡回する建築巡礼の第 8 回目を 7 月 16 日（土）に開催しました。

従前とは異なる徒歩でのツアー開催を企画、愛媛新聞社の後援（新聞紙面掲載）とパンフレットに依る公募で希望者を募集した結果 20 名の一般参加者がおりスタッフ 23 名総勢 43 名での開催となりました。

今年は、徒歩での行程のために天候を心配しましたが暑さ対策に気をつける程度でした。道後温泉駅前「からくり時計」前集合、開催挨拶やら日程説明のあと、定刻に支部青年・女性委員長長岡委員の案内により見学行事に出発、最初に旧養生湯の湯釜（放丈園）～伊予鉄道・道後温泉駅～道後温泉本館へと進み、本館北側・東側では西森・河野委員により温泉の由来やら本館の北面の 3 箇所の入り口、東側の又新殿についての解説が有りました。



次に平成 25 年に本堂と庫裡が消失し再建されたばかりの一边上人の生誕地としての史跡法厳寺へと移動し、ここでは寺の云われについて永井委員、本堂再建に関わりのあった峰岡委員より再建された建物の説明を聞くことができました。境内・建物・句碑など暫く見学し、続いて伊佐爾波神社へと移動近藤・松平委員の説明では昨年と同様近藤委員作成の紙芝居風の解説が有り回廊を回りながらの説明もあり細部についても理解を深めることができましたと思います。

特に国の重要文化財に指定されている八幡社殿が国内に 3 例しかない事など、参加者の皆さんも改めて認識することができたと思います。

昼食を済ませ午後の部、湯釜薬師・湯築城跡見学へと移動し、湯築城跡では武家屋敷の工事に携わった武内副



支部長より使われている材料・工法の検討などの再建に纏わる苦労話を聞くことができました。内部展示などを暫く見学し今年の巡礼行事を終えました。



少し暑い一日でしたが参加された方は有意義な一日を過ごすことが出来、各所での説明担当青年・女性委員の事前下見や調査、また行事に関わった支部会員の準備が整い、今年の巡礼も参加者に一応満足していただき成功裡に終えることができたのではないかと思います。



# 建築士の日の行事報告

## 耐震診断・耐震補強啓発活動

開催日：平成 28 年 7 月 23 日（土）  
場 所：大洲市東大洲 DCM ダイキ店頭  
A コープ大洲店頭

7 月 23 日 大洲市東大洲 DCM ダイキ大洲店店頭及び A コープおおず店頭にて耐震診断・耐震補強啓発活動を行いました。8 月より大洲市も耐震診断派遣方式に参加することとなり、広く市民に周知することを目的としています。当日は建築士会会員 9 名と大洲市都市整備課より 3 名の参加です。大洲市より提供されましたパンフレット 1000 枚をポケットティッシュとうちわと共に配布しました。10 時から 14 時までには少し足りませんでした約 850 枚の配布を行いました。



天気は快晴となり気温もぐんぐん上昇。少々歳を重ねた会員をはじめ皆さん元気に配布していました。今年の

大洲支部 支部長 神田 孝一

反省としては、計画では昨年と同様に起震車を設置し九州・熊本の地震を体験していただく予定でしたが、消防署との打ち合わせで起震車の予定の空気が無く断念する事となりました。もう少し早く手配すれば良かったようです。来年度の計画は今年度に決めることにしましょう。



## 無料建築相談、「建築士の日」街頭アピール

ロゴ入りうちわ配り、熊本被災地写真展、ゲーム大会（積木競争）

開催日：平成 28 年 7 月 30 日（土）  
会 場：八幡浜新町アーケード内  
支部会員参加人数：8 名

八幡浜支部は、「建築士の日」を街頭にてアピールするため、ロゴ入りうちわ配布、ゲーム大会、熊本被災地写真展、建築無料相談会を開催しました。

ロゴ入りうちわは、200 枚用意していましたが早々になくなり、行き交う人たちの暑さを紛らせる手助けができ尚且つ建築士の日のアピールに繋げることができました。ゲーム大会では、今、八幡浜でブームとなっている「BOCO」タワーという、かまぼこ板を 3 分間でどれだけ高く詰めるかという競技を行い、多くの子供たちが友達同士で楽しんもらえました。また、今年の 4 月に発生した熊本地震による被害を受けて、市民の人たちに日頃の防災意識や建物の耐震化の重要性について理解してもらうため熊本被災地の写真展を行いました。足を

八幡浜支部 支部長 林 一夫

止めて被災状況に見入る方が多く、地震に対する意識付けを持っていただく、よい機会になりました。





# 建築士の日の行事報告

## 地域美化活動

西予支部 支部長 亀岡 俊治

事業日：平成 28 年 7 月 31 日（日）  
参加人数：会員 8 人

この近く 3 年ほどおこなっていなかった「美化活動」を、本年は計画しました。

作業内容は、主要幹線ぞいの広場に、「ゴミ捨て禁止」看板の設置と、その周辺の草刈り・ゴミ拾い作業で、計画としては、いたって簡単な行事です。参加対象は、会員のみとしていたこともあり、残念なことに、地域行事や益関係で参加出来ない人が多くなってしまい、少数 8 名での作業になりました。

本年は、アピールもかねて、支部の幟旗も造りました。作業中軽トラックに付けていましたが、なかなか良い雰囲気が出ていたと思います。



作業中・広い場所での記録写真

連日の猛暑に続き、当日もお日様カンカンの晴天で立ち眩みがきそうなかでの作業になりました。少しでも涼しい内にとの考えで、朝 9 時から開始し、場所によ

れば、木陰の所も有りましたが、やっぱりアツイ！5・6 年前に付けた看板も残っている所も有りましたが、支柱は腐食して無くなっており、まだ見えそうな物は一緒に取り付けたりました。



今回↓

↑旧看板



支部長・副支部長も頑張ってます

モラルの問題ではあるが、車が停まる所には、ゴミも落ちていたものである。作業終了後は、野村町の“乙亥会館”の中に有る「カロト温泉」で汗を流し、「キッチン・ペーパー」にて、昼食を取りました。内 3 名は、やっぱりビールも注文しました。作業後風呂上がりのビールは、最高でした。暑い中の作業、まことにご苦労様でした。



“乙亥会館” 11 月末には、乙亥大相撲が開催されます。

## 2016 夢のまち・素敵なまち絵画展

宇和島支部 酒井 久和

開催日：平成 28 年 7 月 2 日（土）  
場 所：新橋通り銀天街（宇和島きさいやロード）  
応募作品：211 点

建築士の日にちなみ、宇和島支部では毎年恒例行事とし、土曜夜市で絵画展をしています。小学校 4～6 年生の子供達に「2016 夢のまち・素敵なまち絵画展」をテーマに絵を描いていただきました。応募数は 211 点、宇和島しんばし商店街で展示しました。



今年は、梅雨の晴れ間に準備ができ、来場者も増え多くの皆さんに作品を見ていただきました。当日に住宅相談、熊本地震での応急危険度判定の建築士会の活動パネルも展示しました。

開催に当り、小中学校の先生の協力のもと 6 月 29 日に審査を行いました。特に 5 年生の想像豊かな絵が集まりこの子たちが 1 人でも建築士になってくれれば素敵なまちになるのではないかと夢を持ちました。今年の 4 月に九島大橋が開通し、今年度で廃校になる九島小学校で表彰式を行いました。最後の九島小学生が受賞でき、先生方に大変喜んでいただきました。絵画制作を通じて子供たちに建築に対する親しみを持ってもらう目的で開始した絵画展も 21 回目となりました。子供たち、先生方、地域の皆さま、支部の方のご協力のもと絵画展が行えました。ありがとうございました。





# 歴史的建造物の保全活用に係る専門家養成講座 第2回講座（7月23日）

場所：常信寺庫裏及び道後地区散策、講師：文化財まちづくり委員会委員長 花岡 直樹

ヘリテージマネージャー講座報告

7

## 「文化財・指定の種類、愛媛県の文化財、道後地区の見学会」

「愛媛県歴史的建造物保全活用に係る専門家（ヘリテージマネージャー）養成講座」の第2回は、7月23日に祝谷山常信寺（祝谷東町）の庫裏を会場に行われました。講師は愛媛県建築士会を代表して、文化財・まちづくり委員会委員長の花岡が務めました。

### 午前の部：建造物の保護の種類と愛媛県の文化財の紹介

まず最初に、前回愛媛県文化財課の高市係長から説明いただいた、文化財の種類、保護の制度について復習を兼ねて説明しました。「文化」を辞書に何と書いているのでしょうか、の質問をしてみました。これが案外答えられないもの。「人間が理想を実現していく精神の活動、技術を通して自然を人間の生活目的に役立てていく過程で作られた生活様式」などと書かれていることを説明しました。一般に日本で「文化財」と認識されているものは、昭和25年（1950）に制定された「文化財保護法」によって一般に用いられるようになった語で、我が国の歴史、文化等の正しい理解のために欠くことができない、また将来の文化の向上発展の基礎をなす貴重な国民的財産と定義づけられていることをお話ししました。

この講座で取り上げられるのはその中の「建造物」であること、大切なものとして保護するために「指定」と「登録」の制度があり、指定制度は重要なものを厳選し許可制度の強い規制と手厚い保護を行うもので、登録制度は、近世の建造物を中心に後世に幅広く継承していくために、自由に活用しながら保存する制度で、指定制度を補うものであることを比較説明しました。



常信寺庫裏での講座の様子

続いて愛媛県の文化財建造物として指定されたものの中から、国指定→県指定→市町指定の順に、抜粋して

文化財まちづくり委員会委員長 花岡 直樹

スライドや配布資料を基に紹介して行きました。重要文化財と呼ばれるのは国指定の物に限ること、その内の約1割が、極めて価値が高く比類のない国民の宝として「国宝」に指定されていて、愛媛県で国宝は大宝寺本堂、太山寺本堂、石手寺二王門の3件があることを紹介しました。この「3件」は多いか少ないか、との問いかけに対して、大半の方は「少ない」と直感されたようでしたが、奈良県と京都府で半数以上を占める、5件以上国宝がある県は（4件はない）わずかに9県で、一つもない県がなんと14県もあることをお話しして、私はこの「3件」は多いと感じているとお伝えしたところ、多くの方に納得いただいたようでした。（紹介した物件の説明はここでは省略させていただきます。）

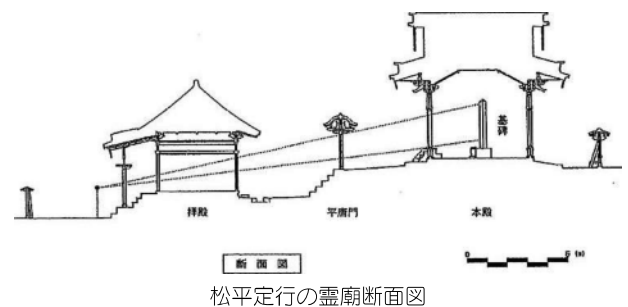
昼食会場としても庫裏を提供していただき、終わった人から庫裏の照明や便所、庭を見学し、昭和の終わりまで霊廟拝殿に乗っていた鬼瓦と鯰も見せていただきました。

### 午後の部：道後地区の文化財の見学

午後は「百聞は一見に如かず」を体験していただくために、午前中に文献や写真で紹介した建造物のうち、歩いて回れる道後地区の文化財を巡りました。以下、それらの建物の概要を記します。

#### 常信寺の霊廟（愛媛県指定史跡）：寛文11年（1671）頃

松山藩初代藩主松平定行公の霊廟本殿には拝殿が付属しているが、これは全国的にも珍しく貴重である。断面の計画が実に妙で、拝殿前に建った時や拝殿に座って法要するとき、本殿内の墓碑が見えやすい様に断面が構成されている。



松平定行の霊廟断面図

#### 松山神社（松山市指定文化財）：元治2年（1685）

常信寺の南西に隣接する松山神社は、創建当初は徳川家康公を祀る「東照宮」として建てられた。松山城の鬼門を守る位置に当り、明治43年に天満宮を合祀し松

山神社と改称した。また、本殿と拝殿、その間の石の間を一体として計画された「権現造」であり、石の間の屋根が本殿や拝殿と直行しているため複雑な形の屋根となるため「八棟造」とも呼ばれている。



松山神社にて権現造の屋根を確認

#### 道後温泉本館（重要文化財）：明治27年～昭和期

全体が一度に建てられたものではなく、一番古い神の湯本館棟から順次整備された。温泉施設としては初めて平成6年に重要文化財に指定された。外観の特徴は、東西南北の4面がそれぞれ違った各時代の顔を持つことである。



道後温泉本館の見学の様子

#### ・北面：神の湯本館棟（明治27年）

松山城城郭大工の坂本又八郎による。たくましい木組みや外部に張り出した高欄に、お城の面影が残っているとの声もある。振鷲閣と呼ばれる塔屋の上の鷲が北を向いているのは、神の湯の三つの玄関が北側の道路に面し

ていたからである。一見純和風に見える建物であるが、搭屋を設ける、ギヤマン（舶来の色ガラス）を使う、小屋組みにトラスを用いるなど、洋風の技術・意匠の取り込みも見られる。

#### ・東面：又新殿・霊の湯棟（明治32年）

同じく坂本又八郎の手による。純和風の建物で、全国的にも珍しい皇族専用の浴室である「又新殿」を持つ。他の浴室はすべて鉄筋コンクリート造に改修されているが、10回しか使用されていないため、明治期の浴室が唯一残されている。

#### ・南面：南棟（旧養生湯）（大正13年）

大正期独特のたたずまいを持つ。白い漆喰壁とガラス戸が印象的。2・3階の階高が高い。

#### ・西面：玄関、事務棟（昭和期の整備）

観光案内やパンフレットに最も多く写真が使われるこの面は、実は一番新しく整備された部分。シンボルである唐破風の玄関棟は、昭和9年にこの場所に移築されたが、建築年代や元の場所、用途は不明。本館の中で最も新しい北端の平屋建ての事務所棟のみが、建築年代が不明（笑）。

#### 宝蔵寺：このほど建て替え

時宗の開祖一遍の生誕の地として知られる宝蔵寺。平成25年8月の火災で本堂や庫裏を全焼し、本堂内に安置されていた重要文化財一遍上人立像も焼失した。その後再建が進み、この5月に落慶法要が営まれたところである。奇しくもこの講座受講生の菅野氏が本堂を、峰岡氏が一遍上人堂の建築を担当した。



宝蔵寺の見学の様子 日影が恋しいようです。

**伊佐爾波神社（重要文化財）：寛文4年（1664）**

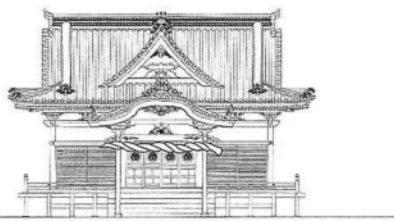
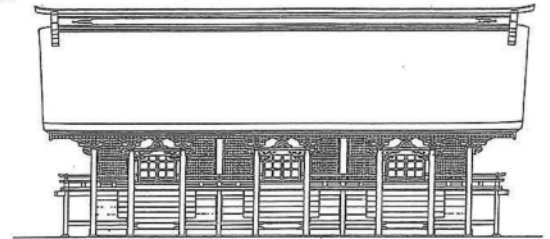
- ・起源は遠く延久年間（平安中期）にさかのぼるが、現社殿は松山藩松平3代藩主定長の造営で、寛永7年（1667）に完成した。
- ・楼門・回廊で囲まれた中に、廊下・申殿・本殿が軒を並べ、中庭の末社2棟を併せて国の重要文化財に指定されている。
- ・本殿は「八幡造り」の建物である。これはその名のとおり八幡神社に限って用いられる建物様式。拝殿と本殿に別々の切妻屋根を架け、中間の相の間の谷の部分に水平の樋をかける。側面からは、屋根が「M型」に見える。
- ・代表例に全国40,600社の総本山である宇佐八幡

（大分）と、石清水八幡（京都）等が挙げられる。

- ・社殿の細部意匠には、仏教の影響が随所に見られる（6世紀ごろから明治維新まで1000余年にわたって続いた神仏習合の名残）。
- 本殿外陣の南妻面の墓股には、迦陵頻伽（かりょうびんが）の彫刻が施されている。これは梵語の Kalavinka に漢字を充てたもので、伝説上の極楽浄土に棲む美女の顔を持つ妙声鳥であるという。
- 楼門上屋の四隅には金剛力士像が全身で隅木を支えている。これは法隆寺五重塔にも使われている。
- 回廊の墓股のひとつに一遍上人遊行の姿も見られ、その紅梁の下には錫杖彫りも見られる。

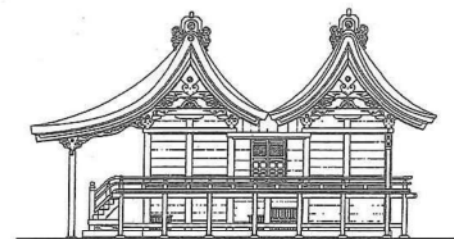
**立面の比較**

本殿 正面 立面図

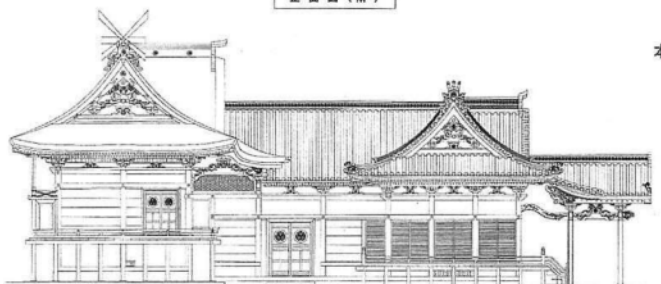


正面図（南）

本殿 側面図



八幡造（伊佐爾波神社）



側面図（西）

権現造（松山神社）

**湯釜薬師（県指定文化財）：奈良時代—天平・勝宝年間（749～757）、**

- ・明治27年の神の湯本館の改修まで、一の湯の源泉の位置に据えられ、湯口として使われていた。
- ・正応元年（1288）、河野通有の依頼により、一遍上人が湯釜の宝珠に「南無阿弥陀仏」の文字を彫ったと言われている。
- ・花崗岩製で直径は166.7cm、高さは157.6cm。

最後に道後温泉駅前で、道後温泉駅舎、養生湯で昭和29年まで使われていた湯釜（現在は足湯の湯口として使用）、放生池について説明をして今回の講座を終えました。

なお、この日は建築士会の全国女性建築士連絡協議会（奈良県）出席等のため、やむを得ず欠席される方がいたため、その方々を対象に30日に補講を行ったことを申し添えます。



# 歴史的建造物の保全活用に係る専門家養成講座 第3回講座 (9月3日)

場所：愛媛県林業会館、講師：広島大学大学院教授 三浦 正幸先生

## 「伝統的建造物の構造技術、修復の方法」

第3回は9月3日に、広島大学より大学院教授の三浦正幸先生をお招きして開催しました。先生は愛媛県の文化財保護審議委員を務められています。普段学生を相手に講義をなさっているだけあって、6時間に渡って退屈な思いを一切させることなく、現実的で面白い話をしてくださいました。パワーポイントでスライドを使って講義をすると、見ているときはなるほどと思うが終わったら頭から抜けてしまうことが多いということで、手書きの注記を入れてくださった図面を資料に講義が進められました。講義内容の要約は以下の通りです。



講座の様子

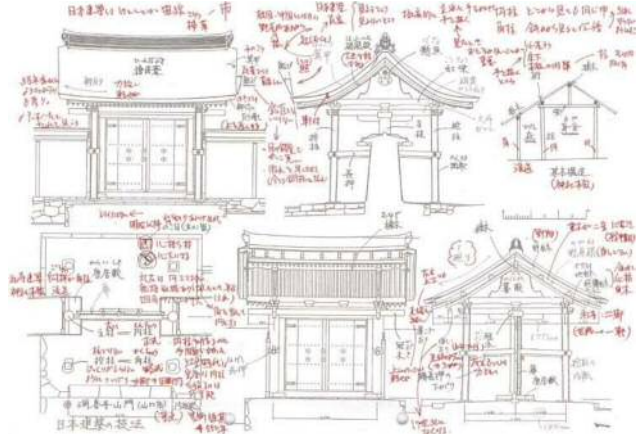
### 文化財と呼ばれるもの

- ・築後50年以上経ったもの。建築基準法等に適合しないものが多い。
- ・時代が古い物の他、高い建築技術を持ったもの、手間をかけたもの、高級な、あるいは珍しい材料を使ったもの、芸術性が高く造詣の深い物。
- ・文化財を見出した時、所有者に価値を伝えることが重要である。

### 日本の建築の特徴

- ・日本建築は宗教建築（社寺）と世俗建築（住宅）の二種類である。城の天守も世俗建築である。
- ・ほとんどが曲線である。
- ・見えるところと見えないところがある。見えるところには徹底的に手間をかけ、見えないところは逆に手を抜く。
- ・蓑甲を転ばすなど、ちょっとした工夫は、カッコ良さや、水を早く切るという実用性を兼ねている。（以上洞春寺山門の図にて説明）

文化財まちづくり委員会委員長 花岡 直樹



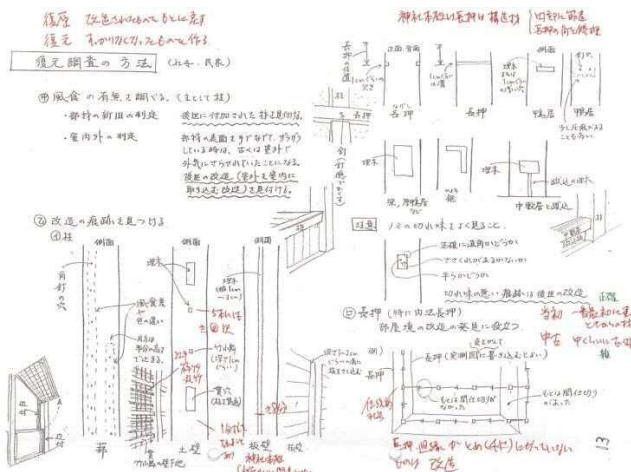
洞春寺山門の説明図

- ・間（けん）はスパンを指す場合と長さ（京都は6.5尺）を指す場合がある。
- ・宗教建築は柱間が違う（中央が広い）が、世俗建築は柱が等間隔である。
- ・社寺建築は繁垂木で、その間隔の倍数で寸法が決まった（枝割）。中央間は必ず偶数とした。
- ・枝割と六枝掛の説明。
- ・桔木の役割と、飛燕垂木の吊り上げ方法の説明。吊金物の位置で飛燕垂木が「く」の字に折れているときは修理が必要である。
- ・仏堂の平面の変遷の説明。
- ・柱上の組物の説明。柱上に組物が乗っているのは宗教建築のみである。ただし舟肘木は世俗建築にも用いられた。
- ・大斗肘木、平三斗、出三斗、出組（一手先）が基本である。
- ・寺院で出組が組んであれば相当立派と考えてよい。
- ・神社建築は17世紀くらいまでは出三斗が限界であったが、18世紀以降は二手先、三手先の組み物が見られるようになる。
- ・禅宗様の組み物は肘木の下角が円弧である、尾垂木の先が細くなっているなどより、見分けが付きやすい。
- ・禅宗様のことを「唐様」とも呼ぶ。「唐」は当時高級なもの、素敵なものというイメージがあった。実は「唐破風」も日本で生まれたものである。
- ・建築様式には「和様」、「禅宗様（唐様）」、「大仏様（天竺用）」、「折衷様」がある。

- ・虹梁の年代による変化の説明。
- ・國前寺の庫裏を例に、幕府の触書を守っての建築の工夫を紹介。
- ・木材は経年とともに風食する。外部は100年で3mmくらい。時代判定の材料になる。
- ・近世の虹梁の変遷と、柱の面取りの変遷を説明。

### 復元調査の方法を説明

- ・風食の有無を調べる。
- ・柱などの改造の痕跡を見つける。

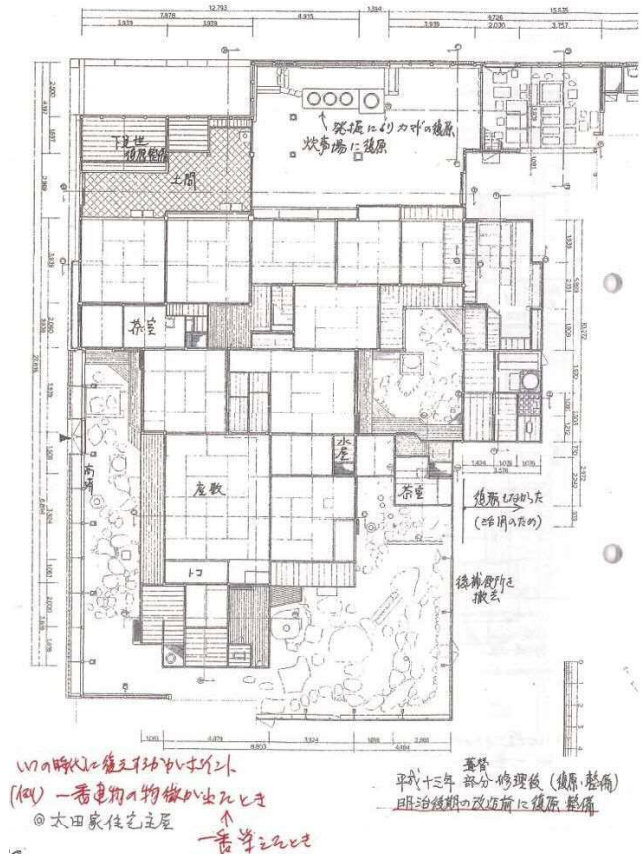


復元調査の方法の説明図

- ・長押（特に内法長押）は部屋の改造の発見に役立つ。
- ・養国寺本堂、西方寺本堂の平面図にて現況から復元図を作成した例を紹介。
- ・古井家住宅（全国で2番目に古い民家）の3回にわたる改造を痕跡調査から見つけ出した例を紹介。
- ・何回かにわたって改造が行われているとき、復元はその時代に戻すのかを議論する必要がある。
- ・実際の復元考証の例を太田家住宅にて説明。
- ・建築当初の姿に復元する場合もあるが、その家の特徴が一番出た時（一番繁栄した時）に戻すことが多い。

### 古建築に使われている材種について

- ・愛媛県の古建築に使われている木材は、全国でも第一級である。
- ・価値のあるものを見つけ出して所有者に伝えることが大切である。



太田家主屋の平面図

- ・以下のような材を探す。
- 床板、床脇の地板などの板材で幅の広い物（半間級）
- 長押で4間以上の一本もの
- 廊下の板で長さ5間以上もの
- 縁桁で長さ4間以上のもの、特に元と末が同じ太さ
- 屋久杉の天井板、カリン・モミジなど珍しい物、黒檀・鉄刀木など大正時代の南洋材、人造材や木目を手で描いたもの等

### その他

- ・小屋丸太の時代による変遷
- ・部材の取り替えの方法とポイント
- ・文化財の現状と当初の姿
- ・明治時代の国宝修理
- ・解体修理でわかったことと復元
- ・復元修理の一般例
- ・復元修理の問題点



# 中国・四国まちづくり委員長 会議の報告

文化財・まちづくり委員会 委員長 花岡 直樹

去る8月6日(土)に岡山市の朝日新聞岡山総局の3階会議室にて、初めての「中国・四国まちづくり委員長会議」が開催されました。



会場の朝日新聞岡山総局 安藤忠雄氏設計

この会議が開催されることになったことの発端は、2月に行われた全国まちづくり委員長会議の時、全体会の後ブロック別に分かれて協議・情報交換を行う機会があり、近県同士という親近感もあって、けっこう盛り上がり活発な意見が交わされました。やはり全国への発信のためにはブロックでまとまってもっと意見交換がなされるべきである、と言うところに落ち着き、ちょうど中間の8月に岡山に集ろう、と決めたことが実現したわけです。久しぶりに懐かしい仲間が顔をそろえました。出席者は以下の通りです。(敬称略)

岡山県：森下・岸武・有馬・今井、広島県：家頭、山口県：原田、鳥取県：田中、香川県：池田、徳島県：喜田、そして私の計10名です。メンバーには異業種の方や準会員の方もいらっしゃいました。お盆前の忙しい時期ということもあって、島根県と高知県は欠席でした。



会議の様子

会議の趣旨は、2月のまちづくり委員長会議で各ブ

ロックでの連携について触れられたこと、九州ブロックでの「まちづくり塾」での事例発表を受け、中国・四国ブロックでもまちづくり活動を通じて近隣県での情報交換、日ごろの連携の重要性を認識し、「中国・四国ブロックまちづくり委員長会議」の立ち上げについて議論する、というものです。

まずは各県のまちづくり活動報告が岡山県、山口県、香川県、鳥取県、広島県、徳島県、愛媛県の順で発表されました。(詳しい内容については省略させていただきます。)

私からは歴史的建造物保全活用に係る専門家(ヘリテージマネージャー)養成講座が始まって、今まで2回の講座が終わったことを報告しました。欠席があった場合どのように対処しているか。次年度の同内容の講座を受けていただくことは本県でも決まっていますが、ある年数続いた最終年度の場合はどうするのか、補講を行っているかなど先輩県の事例をお聞きしました。講座を修了した知識をどう生かすか、必要に応じてネットワークの組織を作るべきなど共通の課題についても話し合いました。あと、昨年度の活動報告を基に、愛媛県の場合は「文化財・まちづくり委員会」という名で活動しており、今までもヘリテージマネージャー的な役割を果たしてきたことも紹介しました。

会議の中で一番盛り上がったのは、熊本地震の後の応急危険度判定の派遣の実施状況のこと、近くに起こるであろう南海地震で被害に遭った時、どのように連携して助け合っていくかという、地震についてでした。比較的被害が小さいであろう山陰の2県が中心となって行かなければならないなど、今後具体的なネットワークの構築が重要になってくるという結論に達しました。

ただこの問題は、愛媛を始めまちづくり委員会が直接の担当ではない県もあり、せっかく話し合った内容を各県の親会にも上げていくように努めなければならないと思いました。

今回初回ということで手さぐりでしたが、このブロックでのまとまりがいかにか大切かということは、参加者全体の一致した結論となり、来年以降も必ず定期的に開催することを決めて散会しました。場所は特別な催し等があれば別ですが、やはり集まりやすい岡山でということになりました。

そのあとは場所を移して懇親会が行なわれ、会議の第2部と称して盛り上りました。終わって外に出てびっくり。岡山の花火大会の真っ最中で、近くまで行って真下で大輪の花火を堪能しました。

# 平成 28 年度第 26 回全国女性 建築士連絡協議会報告

女性委員長 大塚 美由紀

開催日 平成 28 年 7 月 22 (金) ~ 23 日 (土)  
場 所 奈良女子大学、奈良春日野国際フォーラム葛他  
大会テーマ 「未来へつなぐ居住環境づくり」～日本の  
暮らし 豊かな生活文化の再発見～

全国から約 300 名(愛媛からは 5 名)の女性建築士が参加して開催されました。

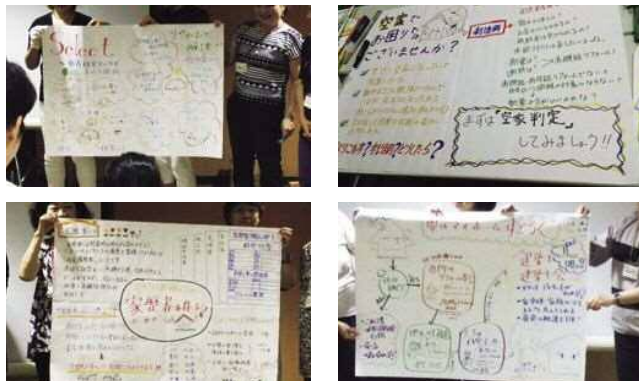
1 日目の基調講演は、岐阜大学名誉教授の渡辺光雄氏が「女性の力で「発見」から「創造」へ」をテーマに、高度経済成長時に大量に建てられた「建売住宅」から現在の高気密・高断熱へ「窓を開けない日本人」になった現段階を捉えながら、「和室の知恵」を継承しながら住空間を再構築する大切さを話してくださいました。

続いてのパネルディスカッションでは、渡辺教授、住環境学専攻の奈良女子大学の大学生院生、理学療法士、女性建築士が、それぞれの立場、視点で現在から未来の居住環境についての討論が展開されました。

2 日目の分科会は A 分科会「防災への取り組み」 B 分科会「エネルギーと暮らし」 C 分科会「歴史的建造物と建物再生」 D 分科会「環境共生住宅～住み継ぐ～」 E 分科会「景観まちづくり」 F 分科会「子どもと住環境」 G 分科会「高齢社会と福祉住宅」 H 分科会「二地域居住の提案」の 8 つのテーマでした。委員長会議での分科会テーマの見直し提案を受けて、「エネルギーと暮らし」が新しいテーマとして加わり、「素材」を中心にして環境共生住宅は「住み継ぐ」を中心にした内容に変わり、「集まって住む」は「二地域居住の提案」に変わりました。今までのテーマも新しいテーマもそれぞれ熱心に意見交換が進んだようです。

私が参加した D 分科会では「住み継ぐ」をテーマに 4 つチームに分かれてパンフレット作りをしました。

2 日目の午後は地方開催恒例のエキスカージョンが 8 つのコースで開催されました。



【中古住宅で暮らす・空き家判定・家賃書を作ろう・マイホームすごろく】



【各分科会報告】

2 日間という短い日程でしたが、非常に内容の濃い有意義な大会でした。



【エキスカージョン・日本聖公会 奈良基督教会礼拝堂】

最後になりましたが、大会に先立って女性委員長(部会長)会議が開催されました。各県から防災や福祉、子供対象の事業等を女性ならではの視点で行っている活動報告がありました。

今後の全建女の地方開催についての提案もありましたが、ブロック大会との兼ね合いやスタッフ確保が困難な事等の意見が多く出ました。

平成 29 年度全建女は 7 月 15 日(土)～16 日(日)に東京にて開催予定です。たくさんの女性会員の方に参加して頂きたいと思います。



【参加者の皆さん】



# 平成 28 年度第 26 回全国女性 建築士連絡協議会に参加して

四国中央支部 大西 千里

平成 28 年 7 月 22 日（金）～ 23 日（土）に奈良で開催されました全国女性建築士連絡協議会に参加してきました。

一日目は基調講演とパネルディスカッション、二日目は分科会。私は F 分科会の「子どもと住環境」に参加しました。各県の女性委員の方々がどのようにして地域の子供たちに住まいについてアピールしているのかが発表されました。そのなかでも印象的だったのが長崎県。毎年、「お菓子で軍艦島をつくろう」とイベントを開催しているそうです。長崎といえば名産のカステラ。まずはカステラで軍艦島の基盤や道路をつくり、そこに子供たちがお菓子で作った家を並べて軍艦島を完成させるイベントです。子供たちに自由に製作させても、各グループで話し合い、家だけでなく学校やお店を作るグループが自然とでき、ひとつの街が完成するそうです。

また、耐震について、模型を使って子供たちにわかりやすく伝えているという意見も多く聞かれました。参考に配布されたペーパークラフト教材の「紙ぶるる」を急遽みんなで組み立て、実際にどのようにして子供たちにアピールしているかを実演する場面もありました。



約二時間半の分科会でしたが、皆さんの意見交換が活発に行われ、とても刺激的な時間となりました。女性ならではの？なパワフルさも感じる事ができた分科会でした。

この二日間、女性ならではの視点で活躍されている方々の意見を聞き、ふれあい、とても刺激を受けました。自分の暮らしている地域で、微力ではありますが、子供たちに住まいや暮らし方を伝えていけたらな、と思いました。

今治支部 近藤 佳代

7 月 22 日～ 23 日に開催された、全建女奈良大会に参加してきました。今回の大会は私にとって特別な思い出がありました。それは、母校の奈良女子大学が会場だったからです。卒業以来 20 年余り経ち、久しぶりに訪れた母校。昔の面影を追いながら、敷地内を散策してみました。正門正面にある記念館は昔と変わらない佇まいです。



大きく変わった事といえば、私が在学中は大学構内に当たり前のようにいた鹿が、今では 1 頭もいなかった

ことでしょうか（笑）体育の授業中に鹿に追いかけられた事、鹿が掲示板の紙や木の新芽を食べていた光景が懐かしく思い出されます。（私の在学中に鹿対策として掲示板がガラス張りになり現在まで受け継がれています）

今回の大会では「和室」をテーマに様々な議論がされました。昔ながらの和式の生活がリハビリに適していて、現在当たり前とされているバリアフリーが、実は高齢者等の筋力の低下を招いている。。。など目から鱗の話を聞きました。

また、現在の若者の中には生まれてから一度も和室のある家で暮らしたことがない人達がいること、そういった人にとっての和室に対する考えなどを聞くことができ、大変興味深かったです。

2 日目は「エネルギーと暮らし」の分科会に参加しました。伝統的建築物と省エネについての話や、京都の町家利用したプロジェクトなど、興味深い話を聞くことができました。

空き時間には奈良の街を散策したりジョギングしたりして、古都奈良の魅力を再発見することができ、大変有意義な 2 日間を過ごすことができ、こういう機会を設けてくださった建築士会に感謝しています。

# 私と建築士

四国中央支部 尾藤 淳一

松山支部の安藤雅人さんよりバトンを受け取りました。リオのオリンピックでの日本男子陸上 400m リレーのようにうまくいかないかも知れませんが、何とか繋いでいきたいと思えます。

私は四国中央市で建設会社を営んでおります。昭和2年、祖父が大工の個人事業主として創業し、法人化したのは、昭和32年です。おかげさまで、来年は創業90周年を迎えます。

私が小さな頃は、会社事務所の横に木材の加工場・鉄筋の加工場・生コン工場があり、今から考えると限られたスペースでよくやっていたなと思えます。また、当時は今ほどではないけれども近隣に住宅がありました。苦情も出ないようなおらかな時代だったみたいです。小学生の低学年ぐらいまでは、休みの日に会社へ遊びに行って鉋屑や大鋸屑で遊んだり、基地を作ったりもしました。生コンの水槽は、セメントから出る石灰の成分でしょうか、薄い膜が張るのですが、見た目には硬い地面があるように見えたので、足を載せ体重をかけたら、水槽に落ちてしまったことがあります。

そんな私も中学校になり、学校で将来の進路を考える授業がありました。何を目標そうか考えていると、友達が「お前は跡を継がんといかんやろう」と言われて、そういうものかと思うようになりました。この頃かどうかは定かではありませんが、家には「建築士」という雑誌が送られてきており、父が建築士であること知り、自分も同じ建築士を目指そうと思うようになりました。

私はもともと理科系が好きでしたので、高校でも何の迷いもなく理科系を選択して、いよいよ大学の進路を決めるときになって、父に相談しました。「建築士になるのには何処に行けばいい？」そしたら、父は「これからは土木が儲かるから、土木へ行け。」私は一段一段上ってきた梯子をはずされたような気分になりましたし、土木のことを何も知りませんでした。高校の先生に聞いても、「よく分からんが同じようなものではないか」とのこと。学費を出してもらおう立場としては、同じようなものならいいだろうということで、土木工学科に進みました。今にして思えば、結構いい加減でした。

土木は理論的で面白い学問でしたが、やはりルーツである建築への思いは、ずっともち続けていたように思います。大学を出て、一旦は東京で就職をしますが、平成2年に実家の家業を継ぐために帰省をし、建築現場で働くうち、やはり自分も建築士を目指そうという気になり、1級建築士試験を受けました。1度目は勉強してなかったのが不合格でしたが、土木の構造設計をやっていたので、構造科目だけはクリア出来ていました。翌年、真面

目に勉強し、学科と製図にパスすることが出来ました。少し回り道もありましたが、憧れの建築士になることが出来て、嬉しかったのを覚えています。

合格と同時に建築士会に入会しました。当時の川之江支部には同業で年が近い人が多くいましたので、割と馴染み易かったのを覚えています。青年委員として本部の活動に参加するようになると、活動する内容も多くなり、多くの人たちと交流することが出来、とても有意義でした。青年委員長の際に、中四国ブロック大会を愛媛で開催しました。当時の濱本会長には、深くご理解を頂き、実行委員長の安藤さん始め、女性委員長の石丸さん、直前青年委員長の朝日さん、そして青年・女性全委員の方々には、多大な協力をいただきました。愛媛らしさを生かしたい大会になったと思えます。

それから9年後、誰かの策略か、中四国ブロック大会の実行委員長を受けることになります。開催直前に東日本大震災が発生し、開催自体の中止も検討しましたが、「建築士として今出来ることは何なのか」を考えてもらう大会にしました。急な段取り変更でスタッフに迷惑をかけましたことに加え、私自身身動きが取れないことがありましたが、よく対応していただきました。

私にとって思い入れのある「建築士資格」ですが、その社会的価値を高めるためにはあるはずの建築士会の動きが、少し不可解と感ずることがあります。あまり建築と関係がない事業をまちづくりと称して自己満足している点。建築士制度の改革について、論議されているかどうかあまり見えてこないし、個々の会員へ問題提起されないこと。私は、建築士が社会にとって必要な存在であるために、こういう風に改革が必要だというような声をもっと上げていくべきで、それが建築士会・連合会の役目だと思います。愛媛の代表である寺尾保仁会長の活躍に期待しています。

私がバトンを渡すのは、同じ四国中央支部でお世話になっている岸良一さんです。よろしくお願いします。





## ターニングポイント

西予支部 土居原 幸子

西予支部松本さんからバトンをいただきました、同じく西予支部土居原です。

建築士会に入会して、数年経ちました。が、ここ6年は土木係として勤務しておりましたので、ほぼ建築に関わることはありませんでした。そして、今年の4月から建築係に異動し、再び建築に携わることとなり、また新たなスタートを切ったところです。6年の月日を重く感じてはありますが、日々元気に楽しく過ごしております。

さて、どの方も何度かは迎えているであろう「人生の分岐点～ターニングポイント」、私も数回迎えております。

1 度目、将来の夢を見つけた高校1年生。何気なく開いた「高校1年生」(だったと思います)という雑誌に掲載してあった記事を読んで、建築関係の職に就きたいと感じ、情報収集を始めました。すごくわくわくして、一瞬で回りが輝いたのを覚えています。

2 度目、高校からの夢に1歩でも近づくように挑んだ大学受験で、希望の建築学科に入学。厳しかった親元を離れての一人暮らしで、バイトにサークル、遊びにと高校とはまた違った充実感がありました。ほとんどの時間が自由に使えることができ、学業はもちろんのこと、学業以外のことでもかなりたくさんを学んだ4年間でした。いろんな県の友人もでき、今でも付き合いをさせてもらっています。今まで違った環境で育ててきている分、やることすべてが新鮮で、高校時代の友人とはまた違った面白さがありました。

3 度目、人生最大のターニングポイント。やはり結婚です。

就職して1年目、仕事で初めて行った現場にて旦那様となる人と出会いました。検査する側、される側としての出会いでした。その後地元の青年団活動を通して(詳しい成り行きは記しませんが・・・)現在に至っています。結婚17年目迎えました。17年いろんなことがありました。言いたいことは山ほどありますが、過ぎたことですから、一つだけ。何より3人の子宝に恵まれ、出産、育児できる環境に自分を置かせてもらっていることにとっても感謝しています。普段は絶対に口に出しては言いませんが、出産できたのも、子供を育てていけるのも、家族がいるおかげだと思っています。家事分担制で、結婚当初から洗濯してもらっています。夫婦共働きで、毎日がめまぐるしく過ぎていく中で、楽しく元気に子育てしながら、自分も成長している最中です。一瞬一瞬が今しかない貴重な時間であることを念頭に置き、悔いの残らないよう全てに全力で挑んでいきたいと思っております。

子供は、長女は高校1年15歳、長男は小学6年12歳、次女は小学4年9歳。3人がそれぞれの個性を持ち、苦労することもあります。人生これで良かったのか悪かったのかなんて、命を閉じるときにしかわからないように、子育てが正しかったのかそうでなかったのかなんて、自分が生きている内にはわからないと思っています。もちろん、これでよかったのかなんて悩むことはありませんが、正解はどうせわからないし、あってないようなものだから、毎日を元気に楽しく過ごしてくれればとそれ

でいいかなあ～と思います。とにかく、子供たちに言い聞かせているのは、「自分がされて嫌なことは人にしない」「うそはつかない」「人に迷惑をかけるようなことはしない」、おまけとして「兄弟にやさしく」です。長男は中々守れていないようですが・・・。長女はあと数年で家を出るようになってくると思いますので、家族で過ごせる時間を大切に、なかなか日が取れませんが、1年に1回は家族旅行に行くことを目標に頑張ります！



H24 GW 家族旅行で行った熊本城



H24 GW 阿蘇山

4 度目、勤続11年目を迎え初めての職場異動。

同じ西予市でも勤務先によって違うことがあり、新鮮な毎日でした。仕事も建築だけでなく、土木も少しやらせていただくこととなり、全くの素人で初歩の初歩からのスタートとなりました。どの年齢になっても常に学びです。仕事について考えさせられた1年となりました。

次の年にはまた異動となり、今度は事務系の職種でした。ここでも勉強できたことは多く、内部をより詳しく知ることが出来ました。仕事の面で成長できた2年間だったと思います。

そして、また1年後、課内異動で土木係となった5年間。また新しいことへの挑戦でした。仕事の中が広がり、また一つ成長できたのかなと思います。これからも迎えるであろうターニングポイント。どんな状況でも環境でも、プラス思考で、元気に楽しい時間を過ごしていけたら幸いです。

## あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしていきます。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承下さい。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

平成29年 1月号(114号) 平成28年11月17日(木)

※ 校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※ 1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかも知れませんので、予めご了承下さい。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がれば、と願っています。  
情報・広報委員会

## 読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せ下さい。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛

—FAX 948-0061—

## 編集後記

「情に溺れる」とか「情に棹させば流される」といった時の「情」は、それにかかりあう人双方ともに、あまりいい結果をもたらさないような「情」ですが、それとは違った、人と人との間に温もりが生まれるような、言わば「粋な情」とでも言えるようなものも、「情」の中にはあるのではないかと思います。そして、これが絵になるためには、双方に「あ、うん」の呼吸のセンスやロマンが必要になります。

社会の中に、潤滑油としてのこうした「粋な情」がなければ、人と人のかかりあいは事務的、効率的なものになって、まさに味気ないものになってしまいそうな気がします。

若い頃にたらふく観た映画の中には、結構「粋な情」が描かれていました。例えば、ハンフリー・ボガード、イングリッド・バーグマン主演の「カサブランカ」(たぶんこんな粋は、邦画では作れない)。そんな「粋な情」がカッコよかったし、そんなカッコよさを身に付けたいと憧れたものでした。

またまた編集後記とは思えないような、訳の分からないつづやきになってしまいました。

それもこれも年のせいと、秋のしわざ、かも。そして、秋とくれば浮かんでくる歌。

白玉の 歯にしみとおる 秋の夜の 酒は静かに 飲むべかりけり(若山牧水)

と、最後は飲む口実に。

(玉乃井 公和)

## 〈いしづち〉2016/11

平成28年11月発行

発行人 会長 寺尾 保仁

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5

TEL (089)945-6100 FAX (089)948-0061

http://www.ehime-shikai.com E-mail: info@ehime-shikai.com

印刷所 明星印刷工業株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長 玉乃井公和 副委員長 大上 恵子

編集委員 越智 麻衣 渡邊 道彦 山本 晶子 大平 将司